

点が多く盛り込まれており大変参考になる。前述の新書とともにぜひ一読をおすすめしたい。そのほか私が読んだもののなかでは、William Strunk 著「The Elements of Style」(MACMILLAN Publ. Co.) も参考になる。米国でよく使われていると聞く。論文の英語とは直接関係はないが、アポロ月面旅行の実況で同時通訳をつとめた国弘正雄著「英語の話しかた」(サイマル出版会)の中で、「ことばに対する細心の注意とデリケートな感受性が外国語に習熟する必要条件」との指摘は、とくによく印象に残っている。

私が論文の英語に多少なりとも関心をもつようになったのは、オーストラリアで電波天文学の研究をしていた頃である。当時 CSIRO (オーストラリア理工学研究所) の電波物理部門で太陽電波グループのリーダーであった Dr. Wild は、簡潔にして明快な論文をかくことで定評があった。私はチャンスとばかり原稿の 'critical' reading をお願いした。ここはこの表現のほうがよい、このセンテンスは不必要だとか、ずいぶん長い時間をかけてさし向かいで教えていただいた。ときには、そんな些細なことはどちらでもよいではないかと不遜にも思うこともあったが、一つの表現もおろそかにできないことを教えられ、のちに恥ずかしい思いをした。親しい友人でもたんに英語を直して欲しいとたのむと、明らかなミスあるいは明らかに慣用に反する箇所を修正するにとどめられるのがふつうであるが、さらに踏み込んで遠慮なく直してくれとたのむと、はじめてセンテンスの書き換えを含む大幅な修正をしてもらえるようである。注意しな

ければならないのは適切な相手を選ぶことで、English speaking people であれば誰でもよいというわけにはいかない。やはり表現に対する繊細な気くばりをそなえた人を選ぶことが肝要である。

ASTRO Observatory Domes

天文台の建設は青少年の 未来の心をはぐくみます



文部省宇宙科学研究所
6mドーム(コンピュータ
コントロールシステム)

◆主な天体観測ドーム納入先◆

文部省宇宙科学研究所／東京大学教養学部／宮崎大学教育学部／東京学芸大学／埼玉大学／福島大学／川崎市青少年科学館／杉並区立科学教育センター／駿台学園一心荘(北軽井沢)／防衛大学校／東海大学宇宙情報センター(熊本)／栃木県こども総合科学館／日原天文台(島根)／自然科学館星の家(新潟)等の他全国に数多くの実績があります。

Pストロ光学工業株式会社

〒170 東京都豊島区池袋本町2-38-15 ☎03(985)1321

正 誤 表

天文月報 第 83 卷 第 8 号

日本人の関した新天体のリスト

1990 Aug. 1. 香西洋樹

No.	誤	正
1)	日本人が発見した新彗星	
17	1964c=1964 IV	1964c=1964 VI
24	1968c=1968 IV	1968c=1968 VI
2)	日本人による周期彗星の検出	
019	P/Schwassmann-Whachmann 2	P/schwassmann-Wachmann 2
3)	日本人による新星(超新星)の発見	
012	SW Ser=N1987	SW Ser=N1978
012	1987 Feb. 28. 46181	1978 Feb. 28. 46181
013	V1688 Cyg=N1978 平賀三鷹 1987 Sep.	1978 Sep. 10. 50417
028	1(p)	10(p)
4)	日本人が発見した小惑星	
054 3774	Megumi=めぐみ=1987YC	Megumi=恵=1987YC
5)	日本(日本人)に関係ある小惑星名	
026 3500	Kobayashi =小林隆夫	Kobayashi =小林隆男